「顔の見える多職種連携研修会（R8.11.12)」にご参加の皆様

講義の中で下記の事例をもとに意見交換を行います。
スムーズに意見交換に入れるよう事前に目を通していただきますようお願いいたします。

【事例】
A さん（78 歳・男性）
要介護 2。妻と二人暮らし。妻はうつ病で治療中。家事も十分にできていない様子。子供は県外在住の長男がいるが、脳梗塞後はあまり寄り付かなくなっている。若い頃は柔道の指導者をしていた。厳しい指導で知られ、多くの教え子を育てたことを誇りにしている。高血圧症、糖尿病、脳梗塞の既往あり、右半身に軽度の麻痺が残り、高次脳機能障害と診断されている。月 1 回の通院、週 2 回の訪問介護、週 2 回の通所リハビリを利用している。脳梗塞発症以前から、近隣との付き合いはすべて妻が行っており、A さんはほぼ付き合いがない。仲の良い友人もいない様子。近所からは時々大声で怒鳴る声が聞こえ、脳梗塞発症後、自宅退院した以降は、ますますひどくなったと報告がある。収入は夫婦で 18 万円。持ち家だが築 40 年以上で修繕費の負担がある。
サービス利用当初は大きな問題はなかったが、ここ数か月、医療・介護スタッフに対する暴言や威圧的な言動が増えてきた。

（ケアマネジャーへの言動）
・B 事業所ケアマネ：女性・40 代半ば
・C 事業所ケアマネ：男性・30 代前半
A さんは、以前 B 居宅介護支援事業所を利用していたがケアマネジャーに対して暴言を吐くなどのトラブルで、C 居宅介護支援事業所のケアマネジャーに交代することになった。その際、若い女性のケアマネジャーをつけるよう要求があったが、C 居宅介護支援事業所は男性のケアマネジャーを担当にした。サービス担当者会議で介護保険サービスの内容について説明した際、「お前では話にならん。担当を替えろ。」「前のケアマネの方がよかった。」「こんなケアプランなら契約をやめる。」などと大声で怒鳴り、後日も電話で繰り返し苦情を言い、担当変更を要求している。

（病院・薬局での言動）
・訪問薬局薬剤師：女性・50 代前半
定期受診時、診察の待ち時間が長かったことに腹を立て、「いつまで待たせるんだ。」「こんな病院二度と来るか。」「お前たちは仕事が遅い。」と受付職員や看護師に対して大声で暴言を吐いた。
A さんは薬を 10 種類近く服用しているが、「薬ばかり飲まされて具合が悪くなった」と訴え、服薬管理を拒否することが増えていた。居宅療養管理指導で訪問した薬剤師が残薬確認を行ったところ、3 か月分近い薬が未使用のまま残っていることが判明した。薬剤師が、「飲み忘れが多いようですので、お薬カレンダーを使いませんか」と提案すると、A さんは突然声を荒げ「俺を認知症扱いするのか」と手元にあった薬袋を床へ投げつけた。

（訪問介護員への言動）
・訪問介護員：女性・40 代後半、訪問介護員 2 級養成研修課程 修了、非常勤職員
・２階の部屋（本人居室は 1 階）の掃除をするよう言われた訪問介護員が、掃除できる範囲について説明したところ、「言葉遣いがなっとらん。」「そんなことも分からんのか。」「お前は本当に介護の資格を持っているのか。」などと怒鳴り続け、訪問介護員の腕につかみかかった。その後、担当訪問介護員は訪問に強いストレスを感じるようになった。

・訪問時、飲み物を出してくれたが断っても飲むよう勧められた。何か（薬物など）混入されているのではないかと怖くなった。

（通所リハビリでの言動）
・理学療法士：女性・20 代後半、主担当の男性理学療法士が訪問できないときの代替要員
・理学療法士：男性・40 代半ば、A 氏の主担当

主担当の男性理学療法士がお休みの日、代わりに女性理学療法士が訪問した。雑談の中で、女性理学療法士や男性理学療法士の居住地などを尋ねられ、プライベートな内容も含めて話をしていた。その後、A さんは女性理学療法士を気にいった様子で、事業所に女性理学療法士を自分の担当にするよう求めるようになった。

また別の日に女性理学療法士が訪問すると A さんは「（男性理学療法士は）女性に手を出す男で、他の女性職員とも親しくしている、あなたも気をつけた方が良い。」と繰り返し話すようになった。

また、男性理学療法士について「態度が悪い。」「説明が下手だ。」「こんな人はやめさせろ。」などと繰り返し事業所に苦情を訴えるようになった。また、男性理学療法士の自宅に電話かけ、男性理学療法士の妻に対し、「あなたの夫は浮気している。」「施設で女性職員と親しくしている。」などと一方的に話し、男性理学療法士の妻は大きな不安を感じた。また、男性理学療法士本人も事実無根の噂が広められていることを知り、大きなショックを受けた。